

■ テーマ名

地域リハビリテーションにおける連携 災害リハビリテーションにおける作業療法士の役割

■ キーワード

地域リハビリテーション、他職種連携、災害リハビリテーション

■ 研究の概要

<地域リハビリテーション>

在宅で暮らす障害者、高齢者が増加傾向にある。その対象者へ充実したサービス提供が行われているか、サービス提供者の職種間、施設内・事業所内連携がスムーズに行われているか調査し、円滑な連携をはかる方策を検討する。

<災害リハビリテーション>

大規模災害時における災害リハビリテーションが注目される機会が多くなっている。具体的には、避難所・仮設住宅における災害関連疾患の予防、廃用性症候群予防目的の環境調整、運動・動作指導等が挙げられる。特に作業療法士は、生活環境調整、福祉用具適応などで活躍する場面が多くなってきている。

■ 他の研究／技術との相違点

作業療法士は、介護保険や高齢者医療・福祉の制度の中での専門職と位置づけられているが、今後は高齢障害者なども増える傾向を考慮すれば、総合自立支援法において、生活介護・就労支援での役割も大いに期待される。現在実際の支援している事業所と連携し、作業療法士の役割、スタッフ間連携についての研究を進めている。

地域リハビリテーションにどちらにおいても、20年間の臨床経験で具体的な事例を通じて得られた経験を基に、より対象者のニーズに応えられる内容にするよう心がけている。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

地域リハビリテーションに関しては、現場で対応している多くの職種にアンケート調査などを行い、各職種の「思い」や現状を情報収集し、問題点を分析し、連携における解決策を見出していく。

被災地における災害リハビリテーションのコーディネーター・ロジスティックの技術で貢献したいと考えている。

■ 関連業績（特許・文献）

兵庫県国民健康保険団体連合会介護給付費等審査委員会、明石市地域自立支援協議会などに関わることで、広く具体的な対象者や他職種のニーズ把握に努めている。

災害リハビリテーションコーディネーター研修修了、JIMTF 災害医療研修アドバンスコース修了。

■ 研究者から一言

作業療法（士）は、その就業する領域の狭さから（病院・施設がほとんど）、認知度がまだまだ低い。人と環境を適合する知識・技術をもつ作業療法（士）の活躍できる場をもっと広く啓発し、市民に対し貢献できるよう努めていきたい。またそのような作業療法士の育成にも力を注ぎたい。